

創造 おおいた

Oita Prefectural Organization
for Industry Creation | No. 293
2025.9

中小企業の元気創造！
「挑戦」「創造」「継続・伴走」
公益財団法人 大分県産業創造機構

#トップインタビュー

サッポロビール株式会社九州日田工場
工場長兼品質保証部長
長谷川 久氏

#企業紹介

株式会社大分日本無線サービス
代表取締役
村井 勝伯氏

#切り拓け!脱炭素

株式会社タカヒコアグロビジネス
愛彩ファーム九重
専務取締役
松尾 崇史氏



02 明日のおおいた

九州電力株式会社大分支店
執行役員 大分支店長
本田 勝也 氏

03 トップインタビュー

サッポロビール株式会社 九州日田工場
工場長兼品質保証部長 長谷川 久 氏

06 企業紹介

株式会社大分日本無線サービス
代表取締役 村井 勝伯 氏

08 切り拓け！脱炭素

株式会社タカヒコアグリビジネス
愛彩ファーム九重
専務取締役 松尾 崇史 氏

10 スタートアップセンター

「おおいた起業家事情」
有限会社藤川金物店

11 大分県よろず支援拠点「支援事例」

・大木化粧品株式会社
・PEONY(ピオニー)

12 TOPICS 1 産学官金交流会のご案内

13 TOPICS 2 発注案件情報

14 TOPICS 3 大分県からのおしらせ、
中退共制度紹介

15 広告

・株式会社シャーロック
・トヨタカローラ大分株式会社
・株式会社ネオマルス

16 公益財団法人おおいた共創基金



公益財団法人 大分県産業創造機構
〒870-0037
大分市東春日町 17 番 20 号
ソフトパークセンタービル
TEL.097-533-0220
FAX.097-538-8407
✉ ossk@columbus.or.jp
https://www.columbus.or.jp

寄稿「明日のおおいた」

さりげなく深き大分

九州電力(株)大分支店

執行役員 ほんだ かつや
大分支店長 本田 勝也 氏



大分に赴任して、一か月が過ぎた。来てからというもの、珍しさに背中を押されるようにして、あちこち出かけている。けれど、出かけるたびに「おや」と思うような新しい顔が見えて、まだまだ底が知れない。ここまで感じた「大分の良いところ」を、思いつくままに綴ってみたい。

何より、この地の風景は美しい。土曜の朝、大分市内から別府に向かう道で、湾の青さが空とつながって、きらきらしているのを見ると、なんだかうきうきする。由布高原へ行けば、山がどっしりと座っていて、これまた頼もしい。竹田の方へ向かうと、山の緑の濃さに目が洗われる。ほんの少し車を走らせるだけで、こんな風景が待っているのだから、やっぱり得した気分になる。

温泉の多さも、こちらの人には当たり前らしいけれど、よそ者の私には夢のような。別府、由布院、鉄輪、明礬、長湯、筋湯……と名前を挙げるだけで、なんだかおいしい献立を思い浮かべるようで楽しい。先日は長湯温泉に出かけて、ぬるい湯に浸かりながら、川の音と蝉の声を聞いていたら、ふっと眠ってしまった。ちょっと後ろめたくもなったが、気持ちのいい時間だった。

食べるものも、どれもおいしい。「城下かえり」の刺身は、ぴかぴかで口に入れた途端に甘味が広がるし、「ふぐ」も葱とともにポン酢にくぐらせると、まるで別人のように味に奥行きが出る。関アジや関サバが、居酒屋でひょいと出てくるのも、こちらでは当たり前らしい。それがまた、いい。

文化や歴史の重みもすごい。宇佐神宮の広大な境内や千三百年の歴史には、とても神聖な気配を感じる。大分市内の春日神社や弥栄神社も荘厳な佇まいだ。臼杵の磨崖仏に手を合わせれば、八百年以上積み重ねられてきた信仰の重みが、ひしひしと伝わってくる。参拝した後、寄り道で温泉に入って帰れるのも、楽しい。

そして、人があたたかい。立場上、会社を越えてさまざまな方とお会いする機会が多いが、私のような新参者にも、みなさん気さくに親切に接してくださる。大分という地域が、九州にありながら、四国、中国地方にも近いという地理的環境が、異文化を柔軟に吸収する素地を育ててきたものと推察するが、いざ仕事となれば、親しみやすさの中に、誇りと芯の強さを感じるのも印象的だ。

思うに、大分というのは、決して派手ではないけれど、風景も、食も、文化も、人も、どれも、さりげなく深く、懐が広い。観光客がもっと来ればいいのに、と言いかけて、いや、あまり来すぎるのもな……と、つい欲張りなことを考えてしまう。東京や京都で人の多さに疲れた観光客が、ちょっと羽を休めに来る。そういう場所であってもいいと思う。

単身赴任の地として、ここに來られて、私は運がいい。これからの大分の姿をゆっくり温泉にでも浸かりながら考えつつ、この先も大分という土地にいるいろなことを教えてもらおうつもりだ。

PROFILE (生年月日) 1968年11月14日生

(出身地) 熊本県

(学歴) 1993年3月 東京工業大学大学院理工学研究科制御工学専攻修了

(職歴) 1993年4月 九州電力株式会社入社

2020年4月 九州電力送配電株式会社 企画総務本部 組織運営グループ長

2020年7月 同社 鹿児島支社 配電部長

2022年7月 同社 北九州支社 副支社長 兼 企画業務部長

2023年6月 同社 配電本部 部長(配電)

2025年6月 九州電力株式会社 執行役員 大分支店長

現在に至る

Top Interview

その恵まれた環境から多くのビール工場の製造拠点がある九州において、2000年の操業開始から25年目の春を迎えたサッポロビール九州日田工場。水郷・日田の良質な水を使ったビール造りに加え、豊かな森に囲まれたビール園、見学を可能にした体験施設を設けており、今や地元の観光資源のひとつにもなっている。「ものづくり力を高め、より魅力のある工場づくりに貢献したい」と明言する長谷川久工場長を訪ねた。



豊かな森と清らかな水に恵まれた ビール工場が挑む新たなステージ

「三現主義」を掲げながら安心・安全で美味しい ビール造りに精進

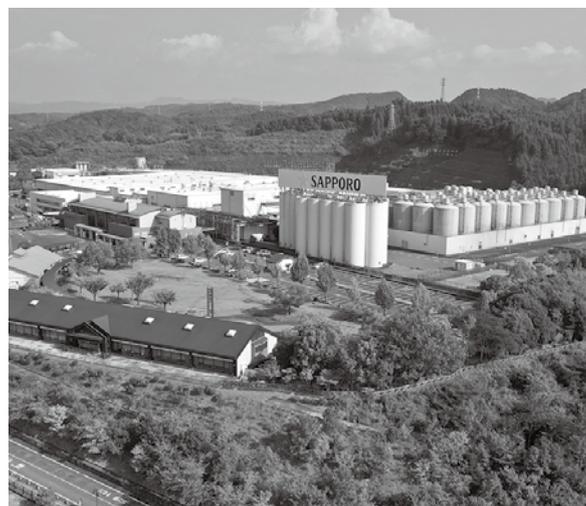
——九州日田工場の12代目工場長として着任され、まもなく半年になりますが、あらためてご感想をお聞かせください。

全国各地の工場勤務を経験してきましたが、工場長としては初めての就任であり、期待に胸を膨らませながら着任しました。九州日田工場は、もともと北九州市門司区にあった九州工場の老朽化に伴い、自然が豊かな日田に移転して既に四半世紀が経過しています。物流体制が整備されており、何よりも水がきれいで日本酒や焼酎の酒蔵もたくさんあり造りには最適な地として知られています。当社でもっとも新しい工場であり、国内はもとよりアジア向けのサッポロビールの重要な製造拠点として機能しており、見学ができるビール工場としては北海道工場と九州日田工場のみとなっています。部門間の連携がとれた風通しの良い職場環境であり、ものづくり力の高い工場にしたいと考えています。

サッポロビール株式会社 九州日田工場

工場長兼品質保証部長 はせがわ ひさし
長谷川久 氏

サッポロビール株式会社九州日田工場 工場長兼品質保証部長。1970年、東京都生まれ。父親の転勤に伴い1973年から大阪府茨木市へ。1994年、北海道大学農学部を卒業後、サッポロビールへ入社。主に技術畑を歩き、本社製造部パッケージンググループのリーダー等を経て、2025年3月より現職。



水郷・日田の豊かな森の中に佇む九州日田工場の全景

——関西育ちでありながら北海道大学に進学されていますね。

ボーイスカウトに入っていたこともあり、大自然に囲まれた北海道は子どもの頃からの憧れの地でした。

「Boys, be ambitious」で知られるクラーク博士が創設された札幌農学校が前身である北海道大学では農芸化学を学び、圃場で育てた稲の生産性や微生物の生態に関する研究などに取り組んでいました。サッポロビールの美味しさを知ったのは、大学の先輩が飲み連れてもらってからです。卒業後にビールづくりに携わるようになり有り難く感じています。

——着任前は本社の製造部門に在籍されていたね。

生産技術本部でパッケージンググループのリーダーを務めていました。当社ではビールそのものを製造する醸造部門と、びん・缶・樽などの容器にビールを充填・包装するパッケージング部門に大きく分かれています。パッケージング部門では、出来立ての美味しい状態を保持し、安心・安全な品質のビールを安定的に供給する役割を担っています。お客様が最初に触れる外装品質を担う部門でもあり、実際に店頭で当社の商品を手に取ってくださっている姿を見るとうれしくなってきます。

——工場長として従業員へ伝えていることはありますか。

私自身は、現場・現物・現実を重視する「三現主義」を常に心がけてきました。実際に現場へ足を運び、自分の目でしっかりと現物を確認し、現実を把握することであるべき姿とのギャップを正しく捉えて、問題解決に繋げていくことが大切だと思うことが多々ありました。誰かが言ったとか、どこかで聞いたとかではなく、自分自身で経験してこそ、よりクリアに課題が見えてくるものだと、私自身の経験を交えて従業員へ伝えています。

実直なビール造りにこだわる西日本唯一の生産拠点

——工場見学ができ、ビール園もある九州日田工場では、企業メッセージも広く伝わっているのではないかと思います。

工場見学では実際のビール造りの現場を自由に見学でき、シアターではサッポロビールと九州の繋がりを説明した映像を体感できます。さらに500席ものキャパシティがある「日田森のビール園」では、出来立てのビールと焼肉やジンギスカンが楽しめ、窓からは日田市街を一望できます。日田出身の諫山創さん作の世界的アニメ『進撃の巨人』のミュージアムもあり国内外のお客様にご来場頂いています。この春には『進撃の巨人』限定デザイン缶を全国発売しましたが、大きな反響を頂きました。

——九州日田工場では、どのようなブランドが製造されているのですか。

黒ラベル、エビス、ラガー、ゴールドスターなど、ひと通りのブランドを製造していますが、比較的小回りが利く工場としてエビス プレミアムブラックなど特徴ある商品もつくっています。新しいことにも挑戦する工場でもあり、麦芽を一切使用せず、エンドウたんぱくを原料として開発した「ドラフトワン」を最初に製造した工場でもあります。

——ビールの原料である大麦の多くは輸入されていますが、九州は国内随一の二条大麦の生産地でもあります。御社は大麦とホップ両方の品種開発を行う国内唯一のビールメーカーと聞いていますが、どのようにビールの原料と向き合っているのですか。

原料へのこだわりは、どこにも負けない強みと自負しています。単に商社などを介して仕入れるのではなく、国内外の農家と直接コミュニケーションを取るメンバーを揃え、現場に定期的に足を運んで我々が求める品種や栽培条件を直にお伝えし、共により良い原料を生産する「協働契約栽培」方式を採用しています。自社で品種開発し、協働契約栽培で生産された原料は、主力商品である黒ラベルやエビスにも使われています。

——ビール以外に焼酎造りにも携わっているようですね。

近隣の福岡県久留米市田主丸の楽丸(たのしまる)酒造は、当社の製造子会社です。『和ら麦』というフルーティーで華やかな香りが特徴の本格麦焼酎となっており、ビール造りのノウハウも活かした製品となっています。



自然との調和「地域との共生」を謳うビール工場

——環境に関しては、どのような取り組みをされていますか。

当社では、グループ全体の環境への取り組み方として「サッポログループ環境基本方針」を制定し、「サッポログループ環境ビジョン2050」を策定して課題解決に取り組んでいます。九州日田工場では、操業当初から「自然との調和」と「地域との共生」を基本コンセプトに掲げており、環境管理の国際規格であるISO14001を認証取得し、適切な廃水処理やゴミゼロなど環境に配慮したものづくりを行っています。また、工場の緑化を積極的に推進していると評価され、今年1月には「緑化優良工場等九州経済産業局長賞」を受賞しました。森林保全を目的に地元の森林組合や少年団と下草刈りや間伐を行っており、工場内のビオトープ園では生態系の保全にも取り組んでいます。

——再生エネルギーに対する取り組みにも積極的のようですね。

2024年7月には太陽光パネル1,922枚、総パネル面積約4,965㎡の太陽光発電設備を工場内に導入して電力の一部を賄うようになりました。これにより年間発電量が約1,276メガワット、CO₂排出量は年間約612t削減される見込みです。また、従来はガスを使ったボイラーでお湯を沸かしていたのですが、ノンフロン型ヒートポンプ給湯設備を順次採用しており、CO₂排出量削減による脱炭素社会の実現に向けた取り組みを推進しています。

——最近若者のアルコール離れがよく話題にのぼってきます。一方で2026年10月には酒税法の改正（ビール系飲料の酒税率一本化）が実施され、ビール業界も新しいフェーズに突入します。長年現場に携わってきた工場長としてのお考えを聞かせていただけますか。

確かに飲酒人口は年を追うごとに減ってきており、発泡酒や第3のビールを含むビール全体の市場は前年割れとなっています。少子高齢化、ビール以外の選択肢の多様化など、さまざまな要因が関係していますが、その中で、当社の三本柱である黒ラベル、エビス、ラガーは対前年比で伸びており、特に黒ラベルは順調に売上を高めています。

——発泡酒や第3のビールも含めたビール全体市場は縮小傾向にあるという認識でしたので、それは意外でした。要因はどこにあると思いますか。

他社も同様に主力ブランドに力を入れて、大切に商品力を育てていると思いますが、当社の黒ラベルについては、若年層に向けての情報発信が効果を発揮しており、いかに美味しく飲んで頂くかがポイントになっています。CMでは2010年から妻木木聡さんを主要キャストとして起用しており、10年以上にわたり「大人の生」をテーマとしたコミュニケーションを一貫し展開してきたことが功を奏していると考えています。また全国を巡回する「ザ・パーフェクト黒ラベルワゴン」という体験イベントを展開しており、今年の夏は大分駅前でも開催し、大変好評でした。

——地元企業に向けてのメッセージをいただけますか。

操業開始以来、25年間にわたり地元の皆さまの温かい支援をいただきながら、九州全域に新たな風を吹き込む存在として発展することができました。これからも地域との繋がりを大切にしながら、水郷・日田で美味しいビールを造り続けていくことが、何よりも地域の貢献だと考えていますので、どうぞよろしくお願い致します。

企業データ

企業名	サッポロビール株式会社 九州日田工場
代表者	代表取締役社長 時松 浩 九州日田工場長 長谷川 久
所在地	日田市大字高瀬6979 TEL 0973-25-1100
資本金	100億円
社員数	2,119名(九州日田工場 70名)
事業内容	ビール・発泡酒・ワイン・焼酎などの製造販売、洋酒の販売、他
創業	1876年
設立	2003年7月1日(サッポロホールディングス株式会社へ) 九州日田工場 2000年3月操業開始

<https://www.sapporobeer.jp/>



- ①西日本唯一の製造拠点として国内外向けの製品を手がける
- ②出来立てのビールが楽しめる日田森のビール園
- ③ビール工場の試飲ラウンジからは日田の街並みが一望できる
- ④「進撃の巨人 in HITAミュージアムANNEX」はインバウンド客にも人気
- ⑤大分駅前で開催された「ザ・パーフェクト黒ラベルワゴン」イベント

無線技術をベースに 海と陸で人命を守る 専門技術集団

株式会社大分日本無線サービス

むらい かつのり
代表取締役 村井 勝伯 氏

株式会社大分日本無線サービスは、船舶における無線設備の販売・取り付け・保守事業からスタートして約50年。防災無線や雨量計関連のテレメーター監視装置、火山監視システムなど陸上分野での実績も豊富で、昨今は自然災害が多発する中、県内の自治体からも信頼が厚い。2代目の村井勝伯代表取締役は、「人の命を守る仕事をしたい」という先代の思いを受け継ぎ、無線技術を基盤とした海陸の安全に資する事業を意欲的に展開している。



事業の基本は人の命を守ること

創業は1977年。村井社長の父親に当たる先代は、もともと外航船の通信長だったが、当時は現在のように無線通信技術が発達しておらず、「遭難したら助からない」と言われていた時代。万が一のことを考えて船乗りを辞め、専門の無線技術を生かして「海の安全を守る仕事をしたい」と、当時住んでいた神戸市で「オリエンタル・マリン・サービス株式会社」を起業した。漁業が盛んな頃で漁業者からのニーズが多く、漁船用無線設備の販売・取付・保守が主な業務だった。

1984年には先代の出身地である日出町に移転し、社名も現在の「株式会社大分日本無線サービス」に変更。わが国トップクラスの無線通信機器メーカー「日本無線」の名を冠して、県内唯一の同社代理店として再スタートし、内航船の航海計器なども手掛けていった。

2000年には、無線技術を基盤に陸上の防災関連事業にも参入。きっかけは1995年に起きた阪神淡路大震災だった。当時、父親は日出町に単身赴任中で、翌日、神戸の家族のもとに駆け付け、変わり果てた街を見て呆然としていた姿が忘れられ

ない、という村井社長。

「父はもともと海で働く人の命を守る仕事をしたいと事業を興したので、海上だけでなく陸上でも人命を守る事業を手掛けたいと考えたようです」

震災当時、中学生だった村井社長は、その後も神戸で暮らし、大学卒業後は神戸のアパレルメーカーに就職した。「後を継ぐことにずっと反抗してたんです(笑)」。転機は2004年、24歳の時。父親の病気がわかり、家業に入ることを決断。無線のことはほぼ素人だったが、営業をしながら取り付けや保守の現場にも同行して、ベテラン社員から技術を学んでいった。30歳で代表を受け継ぎ、ほどなくして先代が他界。その後、45歳の現在まで地道に実績を積んで事業を拡大してきた。

防災ニーズの高まりで、陸上事業が主力に

海上と陸上、両方の事業を手掛けており、海上事業では船舶用設備機器の販売・取付・保守が主な業務。取り扱い機器は「例を挙げるときりがない」というほど多岐にわたり、船舶用レーダー装置、魚群探知機、潮流計などなど。夜間に当直の居眠りによる事故を防止する航海当直警報装置といったものもあるそうだ。

創業以来、漁船の仕事をメインにやってきたが、2000年前後をピークに漁獲量が減って漁業者も激減。現在は、国内の物流を支える内航船の仕事が中心となり、新造船の工事で航海計器一式を任されることも。

「私たちの仕事は内航船一隻にかかる建造費の100分の1程度の規模に過ぎませんが、そこがきちんとできていないと総務省や国交省の許可が下りず、出航できない。船の大きさに応じて搭載する設備機器が決められていて、船の安全を守るために欠かせないものなんです」と村井社長。

定期的な保守点検も義務づけられており、取り付けや点検



無線機器の検査は電波を遮断した自社シールドルームで行う



- ①船舶に設置が義務付けられている遭難救助用の無線機器。衛星 EPIRB、信号を感知して捜索側に位置を知らせるレーダートランスポンダー、双方向無線電話装置
- ②内航船の新造船工事で航海計器一式を設置
- ③自治体が災害時の緊急情報などを伝えるために設置する防災行政無線の屋外スピーカー
- ④電波の送受信のために設置する無線鉄塔

を行うには第4級海上無線通信士をはじめ数々の国家資格が必要。高い専門性が要求される仕事である。

陸上事業で多いのは、自治体ごとに設置される防災行政無線、県内各地の雨量計、河川などの水位計、それらのデータを収集・監視するテレメータ監視装置などの販売・設置・保守。ちなみに県内約300カ所にある雨量計の保守は、すべて当社が担っている。このほか、火山噴火前の予兆を監視する火山監視システム（県内では鶴見岳・伽藍岳・久住山に設置）など、陸上事業も取扱機器は多岐にわたる。こちら現場での作業には電気通信工事施工管理技士の国家資格が必要である。

昨今は県内でも気候変動の影響による自然災害が多発し、自治体の防災ニーズは高まる一方。同社も年々、陸上事業の売上が伸び、現在は全体の8割を占めているという。

スピーディーなアフターフォローが強み

防災関連の機器は災害によって破損などのトラブルが起きることも多いが、村井社長は「何かあった時にすぐ対応できるアフターフォローは当社の強み」と自信を持っている。取扱機器が多岐にわたるので、どの社員もさまざまな機器を扱って経験を積んでいる上、勤続20～30年のベテラン社員も多く、要請があれば必ず誰かが対応できる。現場で「すぐ来てもらえて助かりました」という感謝の声を聞くことが、社員のモチベーションにもつながっているという。最近実績が評価されて、自治体から直接、新たな案件への声掛けを受けることも増えてきた。

「ニッチな分野であり、しかも火山監視装置などは山の上に設置するので、荷物を担いで登って行かないといけない。凍結している冬場は特に大変です。技術と経験が必要で誰でもできる仕事ではないだけに、人命を守るという思いが何物にも代えがたいやりがいですね」と熱く語る村井社長。

目下の目標は、県内の電気通信業でトップテンに入ること。

社員の技術力を高め、経験を積んで、将来的には「大分県になくってはならない、強い会社を目指したい」という。

最後に、県内中小企業の経営者にメッセージを、とお願いですると、こんな答えが返ってきた。

「事業承継を考えている方は、少しでも早く承継した方が絶対いいと思います。私は30歳で継ぐことになって辛いことも多かったけれど、若かったからこそ『てやんでえ』という思いで乗り切れた(笑)。今振り返れば、大変だけど楽しかったし、自分が成長できる材料になったと思います。先代の頃からの社員や取引先の方々は不安だったと思いますが、皆さんに支えてもらった。すごく人に恵まれたと思います。今は、幸せな人生を歩んでいるなと思えますね」

何事にも全力投球の村井社長。現在は異業種企業が集まる「大分県技術・市場交流プラザ大分」の令和7年度代表幹事としても活躍中だ。

企業データ

企業名	株式会社大分日本無線サービス
代表者	代表取締役 村井 勝伯
所在地	速見郡日出町豊岡 4832-2 TEL 0977-72-1715
創立	1977年3月
設立	1984年7月
資本金	1,200万円
社員数	13名
事業内容	[海上事業] 漁船・内航船・新造船工事における船舶用機器の販売・保守 [陸上事業] 防災無線・テレメータ監視装置・火山監視システムなどの販売・保守

<https://oitajrs.jp>



地熱で拓く持続型農業の未来

株式会社タカヒコアグロビジネス 愛彩ファーム九重

まつお たかふみ
専務取締役 **松尾 崇史** 氏

大分県を代表するプラント事業において最新技術を持つ建設会社が、異業種であり、しかも経営が難しく就労者減少が広く取り沙汰されている農業分野に参入し、安定経営を実現できているのか。エネルギーを軸にして日本の「食と農」にまつわる課題解決を目指した、愛彩ファーム九重の軌跡を追った。



持続可能な農業生産の形を求めて

愛彩ファーム九重は、大分市に本社を置きプラント工事・発電事業を行う㈱タカフジのグループ子会社。農業に参入した背景には、日本の食料自給率25%という深刻な現実への問題意識があった。母体である㈱タカフジは、建設やエネルギー分野での実績を活かし、「食」を支える一次産業に真正面から取り組むべく2010年から農業を意識し始めた。最初のステップはパプリカ農場への出資だったが、農業に携わったことがない同社は、実際に現場を回って農家の声に耳を傾けたところ、収益性の低さや天候リスク、販路の不透明さが浮き彫りになっていった。「タカフジグループらしく、どう関わられるのかを模索していた時期がありましたね」。個人農家では大がかりな設備投資は難しく、回収の目処も立ちにくい。さまざまな経営課題を受け、同社の佐藤代表は「農業を仕組み化して人に欠かせない「食」の根幹となる一次産業をビジネスとして成り立たせる必要性を感じたのだという。

そこで注目したのが、マニュアル化とエネルギー活用を前提としたヨーロッパの先進農業モデルだった。特にオランダの農場では、数十ヘクタールをわずかな人員で運営し、発電・暖房・補光・CO₂活用の一体化によって農業とエネルギーの



パプリカが育つために最適な環境を管理

融合を実現しているのを目の当たりにした。これにヒントを得て、同社も地域資源を活かした農業モデルを実際に構築することを決意したそうだ。しかし、企業がある程度の資金を持って農業に携われば相場が動き、生産者価格が下落してしまう。さまざまな農産物がある中でパプリカを選んだ理由は、「彩り良く食卓を潤し、敵を作らない農作物だから」だ。国産比率が低く、かつ健康的で栄養価も高く、競争を避けられて価値ある野菜としてのポジションを確立できると見込んだ。

地熱を活かした農業の取り組み

パプリカ栽培には最低18度、成育期には25度以上の安定した加温環境が必要だ。しかし、取り組み始めた当初は化石燃料によるボイラー運転で年間3,000万円以上のエネルギーコストが発生し、重油価格が高騰するとさらに負担は倍増した。そこで、大分という地の利を活かし、「温泉熱＝地熱」を利用した加温システムに注目した。地熱を活用して暖房コストを抑え、農業をエネルギーで支えるビジネスモデルを作りたいという想いが沸いた。

ただし、温泉熱利用には技術的な課題もあった。温泉熱を利用した農作物栽培の取り組みは、同社が取り組む以前から一部の温泉地で実践されていた。しかし、温泉に含まれる成分が配管に蓄積し詰まりを引き起こす恐れがあるため、配管の取り替えや高額なメンテナンス費用が必要となり、事業継続には至らなかったのだそうだ。そこで㈱タカフジは、本業のプラント技術を活かし、温泉熱利用型の熱交換システムを開発。地熱の恩恵を最大限に活かすとともに、大分県産「温泉パプリカ」というストーリー性のあるブランドづくりを進めた。

オランダの農場を訪れた際、必要なエネルギーを天然ガスによる発電でまかない売電まで見据えた「農業＋エネルギー複合事業」を実際に見て、日本でも農業が従来の「エネルギーを消費する産業」から、「エネルギーを活かす産業」へ



①九重町 愛彩ファーム外観 ②温泉を活用した熱交換システム図 ③熱交換システム ④収穫は1つずつ丁寧に人の手で行う
⑤出荷選別作業 ⑥レストランで提供している温泉パブリカのスキレット焼き

と転換する挑戦に乗り出した。収穫量や相場に左右される不安定な生産収入から一歩進み、持続可能な農業の新しい形を示すことで、農業そのものの位置づけも見直される転機になり得る。

さらなるエネルギー循環型モデル構想

2015年に農業事業を始めて10年の節目を迎える。すでに生産の仕組み化はできており、パブリカの生産量は概ね目標値に到達した。現在、愛彩ファームでは地熱発電と併用して農業ハウスの暖房を行っているが、親会社である㈱タカフジはバイオマス発電や林業における林地残材の付加価値化など、土壌改良材として活用するなど循環型の農業モデルを模索中だ。また、竹害が深刻な大分県で、増加する放置竹林を炭化して食用レベルまで精製し、食品としての活用実現に向け計画を進めている。

このような同社の一連の活動は「循環」をキーワードに、農業、エネルギー、食、さらには文化や教育へと拡張されている。竹を使ったアートと食のコラボレーションや、料理研究家や観光・教育に精通する方々と食文化や歴史をからめた機会を創出する、といった課題解決の拠点としてのポジションを担っている。

同社がこれまでに実装してきたエネルギー・農業生産は、単なる地域活性の枠を超え、脱炭素社会における新たなモデルとなる可能性を秘めている。地域資源を無駄なく活かし、さらにそれを教育・観光と連携させていくといった発想は、持続可能な未来へのヒントとなるだろう。

専門家と拓く「食」から始まる地域ブランド

たとえ農業ハウスの面積を拡大しなくても、生産の質と付加価値の向上により、地域ブランドとしての価値を高める

ことができる。愛彩ファームは現在、料理研究家や大学、観光業界、ソムリエやアーティストと連携しながら「大分サステナブル・ガストロノミー推進協議会」として地域ぐるみでの食文化振興を進めている。大分市美術館内にある同社グループのレストラン「ArtTableいろのわ」では「規格外品を有効活用し食材を新しい価値として提供する」脱炭素・フードロス削減の身近な模範例となっている。

大分の食を体験し、消費し、旅を通じて地域に還元される仕組みは、観光と食の両輪で成立するガストロノミーツーリズムの形を体現している。今後は、スポーツ団体との連携による食育や、企業と組んだ地域食材のブランディングなど、多方面での拡がり期待されている。単なる農業経営ではなく、農業を軸に「食」そのものを起点とした産業・文化・観光の複合展開が今、愛彩ファームから始まろうとしている。

地域課題の解決とともに、エネルギーコントロールと食の融合による持続可能な社会の構築に貢献する同社の挑戦ともいえる取り組みは、他地域や他企業にも大きなヒントを与えることになるだろう。今後の展開に注目が集まる。

企業データ

企業名	株式会社タカヒコアグロビジネス 愛彩ファーム九重
代表者	代表取締役 佐藤隆彦
所在地	大分県玖珠郡九重町大字野上 3905-1 TEL 0973-77-7000
社員数	47名 (パート社員含む)
資本金	500万円
事業内容	農産物生産販売 (パブリカ・トマト等)
	https://takahiko-agro-business.jimdofree.com





おおいた起業家事情

平成 27 年に設置された「おおいたスタートアップセンター」。多くの方が、創業や新事業に取り組んでいます。このコーナーは、おおいたスタートアップセンターが注目する起業家や、話題に迫ります。アトツギベンチャー創出支援事業「GUSH! (ガッシュ)」の令和 6 年度に採択された有限会社藤川金物店の藤川鴻太郎さんを今月をご紹介します。



有限会社藤川金物店

ふじかわ こうたろう
藤川 鴻太郎 さん

所在地 大分県大分市中戸次 4360

電話 097-597-4051

Instagram @kanamono.fujikawa

今回ご紹介するアトツギは、大分市で1930年に創業し、今年95年目を迎える有限会社藤川金物店の藤川鴻太郎さんです。家業の金物販売や水道工事業だけでなく民泊事業など地域の街づくりなどにも取り組んでいます。今回は藤川さんに事業への想いや令和6年度GUSH!に参加されての感想、今後の展望などについてお話をお聞きしました。

■ 有限会社藤川金物店について

当社は、農家の生まれであった曾祖父が1930年に農業が盛んな戸次地域で農機具の販売（鋤や鎌など）からスタートしました。その後、戦後の復興の流れで生活金物（やかん・食器など）の需要の高まりなどもあり販売を開始、豊後大野や佐伯・臼杵など県南地域からの買い物客がとて多かったそうです。その後は、住宅需要の拡大、インフラ整備の需要が高まり建材資材の販売を開始。インフラ整備の資材が仕入れられることから水道工事業なども行う企業に成長していきました。現在、父が代表を務めていますが、父は弊社とは別のところで仕事をしており、そもそも後を継ぐ予定はなかったようですが、戸次の街づくりに関わる仕事や活動を通じて家業が途絶えていくことへの意識が変わり承継した様で今も地域と店舗を軸に街づくりの活動をしています。

■ 昨年度アトツギとして、GUSH! に参加して

きっかけは、家業を「いつかは継ぐだろうな」という意識。その為にながつつり家業と向き合う時間を取ろうと考えて参加しました。7か月間のセミナーの中で、特に印象的だったのは福岡県柳川市にある立花家400年の歴史を継承するアトツギ御花

の立花千月香さんのセミナーです。周りにいろいろと言われながらも、歴史を強みに事業を進めていくお話。また、金物の販売としては同業である大都の山田岳人さんのセミナーが印象的でした。アトツギ甲子園には当初前のめりではなかったのですが、アトツギとしてもっと自身を追い込もうと思ってエントリーしました。エントリー後は九州大会に進出できましたが、それまでの準備がとて大変でした。特に自分たちが持っているものの何が強みかを明確にするのがきつかったです。結果的に、場所が持つもの、文化、空間などをどう人に伝えるか表現の仕方が見えてきて、自分のやりたい未来への解像度が上がりました。GUSH! やアトツギ甲子園を通して、自社や自身の厳しい部分も見つけられたし、思考の整理ができました。GUSH! を通じて知り合えた幅広いつながりができたことも参加して良かったです。

■ 今後の展望について

歴史ある建物が多い中戸次の地域を活かした事業をやっていきたいです。具体的には、店舗スペース裏や2階を活用した民泊事業をしたいと考えています。約100年続く金物店の商家の雰囲気や歴史を保存して宿泊できる取り組みをしたいです。金物屋で泊まれる所は調べてみると2軒ほどありましたが、歴史や雰囲気に差別化ができそうで、別の施設では昔の質屋を活かした宿泊施設が一泊2-3万で運営されている事例もあり、弊社も同様な取り組みで運営できないか調査をしています。9月にはご長男が誕生予定の藤川さん。父として、挑戦し続ける姿を息子には見せていきたいと熱く語られていました。



事例 ①

大木化粧品(株)

(卸・小売業 大分市)

住所 大分市大道町5-1-10 電話 097-543-0194

HP <https://onsenken-oita.co.jp>

(富田CCO、新名CO 担当)

相談内容

総合中間流通業として県内事業者の新たなニーズに応えるべく、自社物流の強みを活かした物流受託事業へ取り組み。共同物流を実現させ脱炭素社会に貢献するとして「物流受託事業」を展開。この取り組みの更なる推進についての相談。

課題の整理・分析(強みの発見)

●当社の強み

「大分市中心部にある自社物流」「県内各地に張り巡らされた集荷網」「独自の物流情報システム」を強みとし、卸売業とEC事業2軸での流通効率化を実現している。また、経済産業省の「荷主企業における物流効率化に向けた先進的な実証事業(物流効率化先進的事業費補助金)」に採択され、共同配送による効率化に向けた取り組みを進めている。

●主な課題

- ・取引事業者への説明会実施等による周知。
- ・物流網の更なる充実とともにCO₂削減効果測定への取り組み。
- ・リスクや失敗を伴う新たな事業展開においてしっかりと成果を出すことや、事業責任者の育成。

提案内容

- ・事業の重要な役割を担い経営者を支える存在の事業責任者に



物流倉庫(ピッキング作業)



物流倉庫(出荷作業)



後藤暁良 事業責任者

対する勉強会の要素を入れて、助言よりも質問などによる聞き取りを主体にやり取りを実施。

- ・自社ホームページの作成の必要性を説明し、作成に向けた支援を実施。
- ・別府市内での集荷場を検討するよう提案。
- ・CO₂削減効果測定に関して中小企業基盤整備機構九州本部の専門相談を紹介して繋いだ。また、大分県産業創造機構の職員も同席してもらうことで幅広い支援を実施。

成果(相談者の声)

よろず支援拠点とのやり取りにより、気付きを与えられるとともに頭の中で考えていたことが整理でき、具体的な取り組みに繋がっていると感じています。自社ホームページも作成し、現在は提案営業に取り組んでいるところです。今後は、物流効率化法に基づく認定にもチャレンジして、物流受託事業を進めていきます。そして、各地域での物流の維持や脱炭素社会に貢献していきたいと考えています。

事例 ②

PEONY(ピオニー)(はり灸マッサージ院 白杵市)

住所 白杵市江無田1517-8 電話 080-2680-7540

Instagram <https://www.instagram.com/peony.hari/>

(南CO・阿南CO・吉良CO・池田CO・新名CO担当)

相談内容

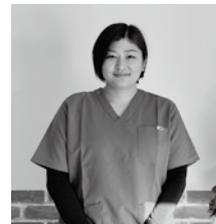
- ・長年勤務していた鍼灸院を退職し、独立開業の準備を進めている。店舗の物件も既に目処がついており、少しずつ準備を進めていきたいので、今後の取り組みについて相談したい。
- ・集客の具体的な方法や、SNS等の情報発信方法と媒体選定などについて意見を聞きたい。
- ・確定申告の方法や帳簿などの基礎を知りたい。

課題の整理・分析(強みの発見)

- ・「あん摩マッサージ指圧師」、「はり師」、「きゅう師」の国家資格を持ち、鍼灸院での業務経験が10年近くあり、事業に関する知識と経験が十二分にある。
- ・店舗候補地が、出身地でもあるため周辺の状況に詳しい。
- ・自己資金を準備しており、固定費を抑えた創業を考えている。
- ・店舗候補地は大通りから少し奥まった場所にあり、店舗として認識してもらうには工夫が必要。

提案内容

- ・創業時の金融機関からの借入れや、創業関連の補助金などの施策を解説。自己資金はあるものの、運転資金も視野に入れた



三浦香織 代表



店舗の内観



店舗の外観

計画の作成方法などを支援した。

- ・確定申告も視野に入れた帳簿の記載方法など、創業時に必要な基礎知識を伝えた。
- ・店舗候補地周辺の市場情報評価(MieNa)を活用しながら、集客の取り組みを検討。Instagramなどの情報発信媒体の活用方法や、チラシ等の販促媒体の制作に関する支援を行った。
- ・看板の設置や店舗の外観等の整備についてのアドバイスを行った。

成果(相談者の声)

創業時の疑問を解決することで、必要な準備が明確になり、注力して取り組むことができました。自社で運用する情報発信媒体や、チラシ等の販促物も、アドバイスをいただきながら自社で制作できました。少しずつですが、集客も進み事業も軌道に乗ってきています。女性専門のはり灸マッサージ院として、地域に根差した取り組みを進めていきたいと思えます。

お問い合わせ、お申込みはこちらまで！

中小企業・小規模事業者のための無料経営相談所

大分県よろず支援拠点

TEL.097-537-2837

FAX.097-534-4320

いろんなジャンルの専門家が！

営業時間 8:30～17:00(月～金曜、土日、祝日)

電話受付 月曜日～金曜日(祝日等を除く)

ホームページ <https://www.yorozu-oita.go.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/oitayorozu/>

中小企業診断士

税理士

社会保険労務士

IT・WEB サービス

金融

広告戦略

デザイナー

事業承継

知的財産

販路開拓

マーケティング

税務

経営戦略

労務管理



令和7年度産学官金連携推進事業 産学官金交流大会

【日時】 令和7年 **10月27日(月)** 14:00～17:20

【場所】 ソレイユ (大分県労働福祉会館) 7F [カトレアA]

【主催】 大分県産学官金連携推進会議

【共催】 大分県 商工観光労働部 先端技術挑戦課

基調講演

14:10～15:40

演題:フュージョンエネルギー研究最前線

自然科学研究機構核融合科学研究所

メタ階層ダイナミクスユニット 教授 永岡 賢一 氏



演題:GX時代における大学発ベンチャーの挑戦

株式会社パンタレイ

代表取締役 佐藤 靖徳 氏



事例発表・取組紹介

15:55～17:20

テーマ:竹パウダー(竹粉)利活用と今後の展望について

株式会社ハヤミ産業 代表取締役社長 柴田 和己 氏

テーマ:フロート型水力発電装置の研究開発について

いくつものかたち株式会社 代表取締役 木原 倫文 氏

テーマ:大分工業高等専門学校取組について

大分工業高等専門学校 地域共創テクノセンター センター長 軽部 周 氏

交流大会終了後には“交流会”も開催!

開催時間 17:30～

参加費 5,000円

参加ご希望の方はこちらから

申込期限

10/15 (水)



お問い合わせ先

(公財) 大分県産業創造機構 地域産業育成課 産学官金連携担当: 松井・藤野
TEL : 097-537-2424

発注案件情報

2025年6月末時点での案件情報のため、すでに終了している可能性もございます。まずは、お気軽に大分県産業創造機構 取引振興課 097-534-5019 までご連絡ください。 ※発注時期について 直ぐ：直近に発注案件あり 未定：時期は未定だが、発注案件の予定あり

発注No.	主要製品	発注製品加工名	加工内容	材質・数量	必要設備	発注時期
大分-1	半導体向け無人搬送台車、制御盤	精密板金・塗装	板金・溶接・塗装（前処理でリン酸鉄化成処理） 大きさ：手のひらサイズから1m弱×1m弱	SUS304、SUS430、A5052-H34、A1100-H14、SPHC（無電解ニッケルメッキ10～15μm） 100～300台分/月	塗装前処理工程（前処理でリン酸鉄化成処理）	直ぐ
大分-2	半導体・自動車関連製造装置及び金型等の製造、並びにロボットの製造	装置設計/ソフト(PLC)設計			ICAD-SX3D	直ぐ
		手のひらサイズ～テーブルサイズの加工※装置組付部品	①機械加工（半導体製造装置のパーツ） ②超硬加工 金型加工	AL、SUS、SS400 等	①マシニングセンタ、5面加工機、旋盤②プロファイル、加工精度：±0.002 材料支給有り（但し、記載内容の条件が合いそうな場合提示とする。） ①②工期3W～4W	直ぐ
大分-3	各種クリーン類設計製作、輸送機械設備製作（連続アンローダー、コンテナクリーン、台車）、大型機械加工、精密製品製作	手摺、歩道、架台	製缶、溶接品	SS400、SUS304等	2.8t以上のクレーン設備	未定
		ピン、軸類	機械加工部品製作	SS400、S45C、SCM材等	図面要求に対応出来る機械設備	未定
大分-4	プレジャーボード、漁船の開発、生産 海洋設備（水槽・ポンプ・インプス洗浄ロボット等）、生物資材の開発、生産	FPP成形加工	小型船舶の船体及びハッチ等の付属品	GFRP		未定
		木材加工品	小型船舶の船体の構造部品	木材		未定
		金属加工部品	SUS304、SUS316素材のバルビット等 小型船舶の船体機装品	SUS304、SUS316	3Dバンダー、パイプバンダー、溶接等	未定
長崎-1	SUS薄板製品、SUS、SS架台、ダクト、長尺加工品、組立	各種部品の一括製作。 製缶・機械加工～ 表面仕上（パフ・HL）、組立、長尺加工品	薄板が多いですが、厚板もあります。 長尺旋盤	SUS、SS	各種設備、ロールバンダーやパフ工具など	未定
宮崎-1	炭素繊維強化プラスチック（CFRP）製民間航空機部品	CFRP加工部品	CFRP製品の追加工	CFRP製カスケード 大きさ：300×560×60 数量：約150/月	マシニングセンター	令和7年12月
宮崎-2	樹脂成形・ダイカスト成形（アルミ/亜鉛） 省力化設備設計製作/治具	加工部品	機械加工、精密板金加工			未定
		設備設計(2D/3D) 電気設計(ハード/ソフト) 電気配線	ハード・ソフト設計 制御盤・外部配線			未定
宮崎-3	一般産業機器の設計・製作・据付・メンテナンス	タンク製作・配管工事	製缶、配管工事	SS、SUS、樹脂		未定
		自動機械部品製作	金属、樹脂加工	SS、SUS、樹脂		未定
宮崎-4	機器製作・組立、タンク類製作	攪拌翼	製缶・機械加工 軸径φ300mm、羽径2,180mm	SUS304		未定
		大型タンク	製缶 φ4,200mm、高さ6,650mm	SUS304、SUS316L	現地での製作	未定
宮崎-5	自動車部品・食品製造機械の製造・組立	機械精密加工	自動車部品の検具（設計～加工～組立）	AL・鋼材	切削加工機、研磨等	未定
		省力化設備	設計～加工～組立～調整～据付まで	用途に合わせて	用途に合わせて	未定
宮崎-6	ガンタイプバーナー	製缶品	板金、製缶 配管・ダクト類	SS、SUS	半自動溶接機、TIG溶接機	未定
鹿児島-1	樹脂、金属、ゴム、他、精密機械部品加工	金属加工	板金・製缶・金属加工全般 板物、丸物 小物～中物～大物	少量多品種 ※数物を有		直ぐ
		樹脂加工	樹脂切削 板物、丸物 小物～中物～大物	少量多品種 ※数物を有		直ぐ
鹿児島-2	電子機械器具の開発・製造	LED照明器具他	射出成型品 + 精密金型製作 真空成型品	樹脂全般 少量	金型加工設備一式 射出成型機（50～300t）	未定
		衛星追尾機器一式	金属切削加工他	SUS、AL 少量	旋盤、マシニング	未定
鹿児島-3	金型部品、治工具、機械部品	超硬加工、焼入鋼加工、超硬ロー付 焼バメ、冷やしバメ	丸物、角物とも切削、研削、放電（各図面による為、全てが必要な訳ではありません。）	部品加工 AL、ステン、銅、鉄、超硬、難削材、セラミック 単品～50個程度	旋盤、マシニング、各種研磨、放電（各図面による為、全てが必要な訳ではありません。）	未定
九州外-1	工作機械、ホブ盤	お客様の歯車加工に必要な治具部品の製作	機械加工、研削加工手前まで 10mm～500mm角材、丸材	材質：鋼材、鋳物 数量：単品	旋盤（汎用、NC）、縦、横フライス盤（汎用、NC）、MC	未定
		ホブ盤の製造に必要な部品の製作	機械加工、研削加工手前まで、 10mm～500mm角材、丸材	材質：鋼材、鋳物 数量：6個/ロット	旋盤（汎用、NC）、縦、横フライス盤（汎用、NC）、MC	未定
九州外-2	特殊鋼材料及び加工部品の仕入れ・販売 リサイクル炭素繊維入り樹脂ペレット及び加工部品の販売	自動車部品、工作機部品、ロボット部品、その他産業機械部品など	切削、プレス、鍛造、鋳造、研削、表面処理など	各種金属（SUS、鉄系、AL、チタン、鋳物など）	加工に準じた設備	未定
		産業機械部品など	射出成形、切削、研削など	各種樹脂（特にCFRP）	加工に準じた設備	未定
九州外-3	精密板金・切削 短納期	機械加工 板金	機械加工、板金 （300～600）（1000×1000）	SUS、AL、SPC 数量：1～50	一般的加工設備で可	未定

悩まず どんとこい労働相談週間

大分県労働委員会では、解雇、賃金未払い、労働条件などの労使間トラブルについて、電話、来所での相談を無料でお受けします。秘密は厳守されますので、お気軽にご相談ください。



労働委員会は、労使紛争を解決するための専門的な行政機関です。
労働相談では、専門的なアドバイスのほか、内容に応じて
労働委員会の「あっせん」や適切な機関を紹介します。

期 間

令和7年10月1日(水)～10月7日(火)

受付時間

平 日 9時～20時 (来所の受付は19時まで)

土・日 9時～17時 (来所の受付は16時まで)



※平日夜間、土・日曜日の来所の場合の出入口は県庁舎本館東側通用口。

相談の方法

①電話相談 097-536-3650 (相談専用ダイヤル)
097-506-5241
097-506-5251

②来所相談 大分県労働委員会事務局 (大分県庁舎本館3階)

※来所相談の場合は事前にご連絡ください。

なお、この期間以外でも、平日(9時～17時)であれば、常時労働相談を受け付けています。

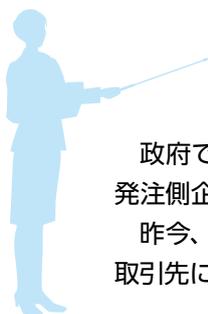
お問い合わせ先

大分県労働委員会事務局 (大分県庁舎本館3階)

9月は「価格交渉促進月間」です

政府では、価格交渉が頻繁に行われている時期である9月と3月を「価格交渉促進月間」と定め、発注側企業と受注側企業の価格交渉、ひいては価格転嫁を促進しています。

昨今、原材料価格やエネルギー価格、労務費等が大きく上昇しており、下請中小企業が適切に取引先に価格転嫁できるよう、発注側企業と受注側企業の価格交渉を促進していきます。



働く皆様に将来の安心を。



で退職金。

「中退共」は中小企業のための
国の退職金制度です。

毎年10月は加入促進強化月間です。

- ① 国の退職金制度！
掛金の一部を国が助成します。
- ② 外部積立型でラクラク管理！
管理や運用の手間がかかりません。
- ③ 掛金は全額非課税でオトク！
節税に加え、手数料もかかりません。

- パートタイマーさんも
ご加入いただけます。
- 他の退職金・企業年金制度等
との資産移換も可能です。



詳しくはホームページ
をご覧ください。

今すぐ社内でするノウハウが沢山

Webマーケティング ネット集客の方法を **無料公開中!**



▲ここから
チェック

こんな方に

- SEO対策ってどんなことするの?
- Google ビジネスプロフィールについて詳しく知りたい
- 社内ですることは自分たちでまずやってみたい



大分地域密着型ウェブコンサルティング
株式会社 シャーロック

<https://sherlocks.co.jp/>
大分市府内町三丁目4番20号

ご相談無料



050-3557-1204

あなたを笑顔に

make you smile

TOYOTA COROLLA OITA

経営者・人事総務の方必見 食の福利厚生なら!

まちなか社員食堂



従業員の
定着率
向上に

採用の
強みに

詳細はこちらから

GoSmart

検索

株式会社ネオマルス/担当:GoSmartサポートチーム



NPOと協働しませんか？

公益財団法人おおいた共創基金では、今年7月に、農産物を販売する「おおいた県農産物加工企業組合・どろんこ市場」さんから、「昨今の農業従事者の高齢化や担い手の減少により、入荷量が減少しているのので、NPOで農作物を作り販売するところはないですか？」と相談を受けました。



基金事務局での面談の様子



薬草栽培の様子

早速、集荷場の松岡近辺で活動しているNPOに呼びかけたところ、「NPO法人碧い海の会」がトライしてみたいとのことで、双方の面談をセッティングしました。その結果、マッチングが成立し、大分の薬草のヒュウガトウキ、レモングラス、エキナセア、枇杷の葉から作ったお茶を県内のイオン、マックスバリュ、どろんこ市場で販売することとなり、どろんこ市場さんの入荷量の一助となりました。

おおいた共創基金では、分野を問わず、皆様のニーズに寄り添う支援を提供しています。

また、どろんこ市場さんでは企業等と農家をつなぐ活動もされています。耕作放棄地の紹介もしています。

お気軽にお問い合わせください。



商品の薬草茶

【お問い合わせ】

公益財団法人おおいた共創基金

〒870-0907 大分市大津町2-1-41 大分県総合社会福祉会館1F

TEL: 097-556-3116(担当 和田)

URL: www.mejiron.org

